

照葉樹林文化研究会 2018 in 大阪 記録

照葉樹林文化研究会（大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科と共催）を開催しました。

と き 2018年6月9日（土）13:00

ところ 大阪府立大学 A15 棟 130 室

講演発表（13:05）および要旨

1. 中尾佐助の庭 今昔

平木康平 大阪府立大学 名誉教授

2. 雑草の語義文化

山口裕文 大阪府立大学 名誉教授

要旨：図書館や書店で「雑草」の熟語を含む書を検索すると、理工、農、文芸、人文、実用、児童書など極めて幅の広い領域にみられる。理工では農の下部におかれ、自然地理、環境、造園など多岐にわたっている。図書館情報学の類型のなかに、「雑草」というジャンルが、なぜ無いのかは、1：雑草学の広がりや影響の大きさ、2：雑草学の枝葉の様（さま）が幹の無い叢生か散生する姿であるからか、3：学問としての体系化が未熟であるのかであろうが、柳宗民（2002）が「雑草という言葉は、差別的ではあるが、反面、庶民的な親近感がある。」と書いていることにも留意すべきである。

本発表では雑草の字義と用例を検証して、1：雑草の文字はいつできたのか？ 2：いつから「ざっそう」と呼ぶようになったのか？ 3：日本語の雑草にいつ英語の Weeds が結びついたのか？を考え、これまでの書籍には雑草に対する解釈はあるが、納得行く説明のないことを考察した。

雑草の文字の構造をみた後、漢籍にみられる雑草の用例、和籍での「ざっさう」の出現の経緯、西洋からの影響を受けた用例、明治初期の混乱期の用例、半澤詢（1910）の『雑草学』までの用例を紹介し、雑草の概念が輻輳的な 3 重構造になっている事を提示した。

本講演の内容は『雑草学入門』（山口裕文監修、2018、講談社）で公表している。なお、質疑応答の際に、講演内容とは異なる前年の発表について疑念を呈した主張があり、やむを得ず応答したが、質問者が誰なのか判るような司会のあり方も踏まえて合理的な議論の場とすべきである。

3. 水俣照葉樹林の長期継続調査

前中久行・大野朋子・縄井あゆみ（神戸大学人間発達環境学研究科）・中島佳徳（中島樹木クリニック）・永野正弘（水俣照葉樹林調査グループ）

4. イチョウの乳信仰・九州調査記
児島恭子（札幌学院大学人文学部）

研究フラッシュ 16:00

1. 江陵馬山一号楚墓出土の絹織物の思想的背景—色と染料を中心として
西尾真澄 大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科
2. ネパールのレッサーパンダ
Pthak・Ramesh Prasad 大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科
3. 竹と獐・白熊・panda・熊猫・大熊猫・小熊猫・猫熊・大猫熊
大形徹・董涛 大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科
4. 綾を訪ねて
山下るみ子 杏漢方セミナー
5. 鍼灸美容における芳香について
久野利和 関西医療大学大学院

研究企画会議 17:00

総会 17:20

決定事項

- 1：次回の研究集会は、2019年6月8日に大阪府立大学 A15 棟 130 室で開催される事になった。
- 2：ホームページの移動については、世話人会に一任し、来年の総会に経緯等を報告する事になった。

懇親会 18:00 府立大学近くで開催されました。